

遺伝子検査学演習Ⅱ (Graduate Seminar of Science Laboratory for Molecular Analysis Ⅱ)

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開	
千原 猛、大島 茂	1年次後期	選択	2	48	演習	あり	卷末掲載	可	
授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対するフィードバック方法	遺伝子検査学演習Ⅱでは、がん遺伝子に特徴的な異常を見出す学修、さらに、複数の遺伝子を一度に調べるがん遺伝子パネル検査についても理解を深める。また、コンパニオン検査、がん遺伝子プロファイリング検査などについても論文にて解説する。論文読解と討論を通じて学修を進める。課題に対するフィードバック方法/レポートに対して討論するほかコメントをつけて返却する。								
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「健康に対する社会的ニーズを認識するとともに、グローバルな視野を持ち、科学的根拠に基づき、自ら考え、判断し、課題解決に向けて対応することができる。」及び④「臨床検査技師の役割を探究し、臨床検査学分野の高度な実践者、教育者及び研究者として社会に対して責任を果たし、貢献できる。」の達成に寄与している。								
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	1. がん遺伝子シーケンス解析について解説できる。 2. がん遺伝子パネル検査を症例を用いて解説できる。 3. コンパニオン診断について解説できる。								
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	第1回～第24回事前学習：事前に計画されている単元について予習を行っておく/論文を精読するためには、予習を行うことが望ましく、指定論文の内容を概説できるようにしておくこと (各30分) 第1回～第24回事後学習：講義内容で不明な点は、講義終了直後もしくはオフィスアワーを利用して質問するなどして明確にするよう努める/論文の内容をよく復習しておくこと。(各30分) ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間 (2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回) (1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回) (1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回) を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。								
授業計画	第1回	遺伝子配列およびその検索方法についての論文の読解と討論1					千原 猛		
	第2回	遺伝子配列およびその検索方法についての論文の読解と討論2					千原 猛		
	第3回	シーケンス解析についての論文の読解と討論1					千原 猛		
	第4回	シーケンス解析についての論文の読解と討論2					千原 猛		
	第5回	がん遺伝子パネル検査についての論文の読解と討論1					千原 猛		
	第6回	がん遺伝子パネル検査についての論文の読解と討論2					千原 猛		
	第7回	がん遺伝子パネル検査の臨床例についての論文の読解と討論1					千原 猛		
	第8回	がん遺伝子パネル検査の臨床例についての論文の読解と討論2					千原 猛		
	第9回	コンパニオン診断に関する論文の読解と討論1					千原 猛		
	第10回	コンパニオン診断に関する論文の読解と討論2					千原 猛		
	第11回	最先端のゲノム解析に関する論文の読解と討論1					千原 猛		
	第12回	最先端のゲノム解析に関する論文の読解と討論2					千原 猛		
	第13回	固形腫瘍における遺伝子検査学に関する文献読解1					大島 茂		
	第14回	固形腫瘍における遺伝子検査学に関する文献読解2					大島 茂		
	第15回	固形腫瘍における遺伝子検査学に関する文献読解3					大島 茂		
	第16回	固形腫瘍における遺伝子検査学に関する文献読解4					大島 茂		
	第17回	固形腫瘍における遺伝子検査学の討論とレポート作成1					大島 茂		
	第18回	固形腫瘍における遺伝子検査学の討論とレポート作成2					大島 茂		
	第19回	染色体異常症における遺伝子検査学に関する文献読解1					大島 茂		
	第20回	染色体異常症における遺伝子検査学に関する文献読解2					大島 茂		
	第21回	染色体異常症における遺伝子検査学に関する文献読解3					大島 茂		
	第22回	染色体異常症における遺伝子検査学に関する文献読解4					大島 茂		
	第23回	染色体異常症における遺伝子検査学の討論とレポート作成1					大島 茂		
	第24回	染色体異常症における遺伝子検査学の討論とレポート作成2					大島 茂		
評価方法 評価基準	レポートで評価する (100%)								
教科書	特に定めない			参考書等		関連資料を講義の中で適宜紹介する。			
学生へのメッセージ	ゲノム解析など臨床検査では特殊検査になるが、一般的になりつつあり、多様な疾患が対象となっている。将来の臨床検査技師業務の拡大に向けて指導的立場になるようよく学修してほしい。								